

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	キノコにじいるクラブ		
○保護者評価実施期間	R7年12月02日		～ R7年12月20日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	86	(回答者数) 11
○従業者評価実施期間	R7年12月02日		～ R7年12月20日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4	(回答者数) 4
○訪問先施設評価実施期間	R7年12月10日		～ R8年1月10日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象者数)	36	(回答者数) 21
○事業者向け自己評価表作成日	R8年2月18日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	作業療法士が各学校や保育所を訪問し、観察によって得られた評価結果に基づき、教職員への助言や直接的支援を実施しています。また、環境要因を的確に把握・分析する専門的視点を活かし、それぞれの場面や条件に応じた環境設定の提案・調整を行うことで、子どもへの支援効果の向上を図っています。	各学校および保育所の児童に関わる教職員を対象とした研修において、講師として招聘され講話を行う機会を多く得ています。また、家庭教育学級や教職員向け研修にも定期的に登壇し、支援に関する知見や実践内容の共有を通して、関係者間の共通理解の形成と連携強化を図っています。	地域住民との共通理解の形成を目的として、2022年より徳之島において子ども支援に関する学会を開催しています。本取組では、一般住民が学校や保育所の実情を理解できる機会を企画するとともに、教職員との相互理解をさらに深めることで、子どもたちの成長を促進する支援体制の充実を図っています。
2	2025年発行の作業療法分野の専門誌において、キノコにじいるクラブの実践的取組が掲載されました。これにより、全国の作業療法士に対して、学校作業療法や職場訪問支援に関する認知と理解が一層促進されたものと考えられます。	全国で学校現場において実践的に活動している作業療法士との連携を推進し、最新の知見や実践方法の共有を通じて、支援内容の継続的な更新と質的向上に努めています。	今後は、作業療法分野の学術誌への掲載にとどまらず、学会等においても当事業所の実践的取組を発表し、より多くの作業療法士との連携強化を図ることを目指しています。これにより、知見の共有と実践の発展を促進し、支援の質的向上につなげていきたいと考えています。
3			

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	職員数に限りがある現状では、緊急性の高いケースに対して訪問頻度を十分に高め、密接な支援連携を行うことが困難な事例も認められます。今後は、人員体制の拡充と専門性の高い人材の確保を進めることで、より広範かつ質の高い支援を継続的に提供できる体制の構築を目指します。	人員数の課題に加え、職員間の経験差も影響しており、解決には一定の時間を要する問題であると認識しています。今後は、各職員の専門性向上を体系的に推進することで、支援内容の継続的な質的向上と実践のアップデートを可能にしていける必要があります。	今後は、研修機会のさらなる充実とそれに伴う人員確保を計画的に推進することで、これらの本質的課題の解決を図っていく必要があります。
2			
3			